

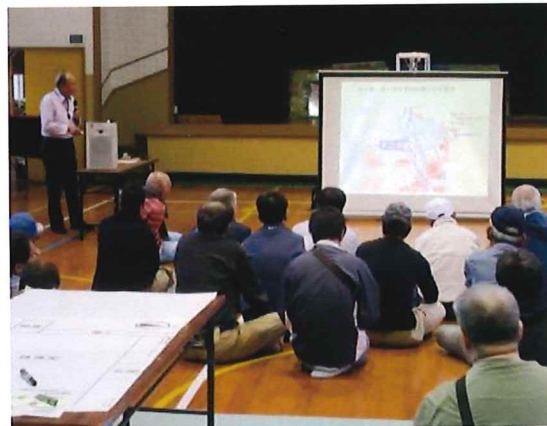
地域づくり協議会だより

防災訓練が行われました



令和1年10月14日(月) 体育の日
13時30分～15時30分で実施されました。
約60名の方の参加をいただきました。

講座の司会・進行を務めていただいた長浜市防災危機管理局の
安原氏と藤本氏。たいへんお世話になりました。



「お年寄りがいる4人家族」「風邪の避難者」「外国人」
「ペットを連れて来た人」「車で来た他所の人」「けが人」など
次々と避難してくる人をどう受け入れるのか？



今回の防災訓練は避難所の設営と運営についてのゲーム形式での勉強会でした。まず長浜市防災危機管理局の方の各地の避難所運営について画像による説明がありました。混乱、不便を感じる避難所から問題点を検証しその解決を目指し最近では避難所開設・運営のノウハウもある程度できました。しかし災害の程度、地域の地理的状況、その季節、その避難所の収容力、立地、被災者の人数等で様々なパターンがあります。地震、水害などで自宅の全壊や消失など長期の避難所生活を余儀なくされた場合にすこしでも安全、快適、衛生的にまたプライバシーの尊重なども考慮した理想の避難所運営をどうしたらよいのかをみんなで考える訓練をおこないました。なにも予備知識がなし不測の事態にうまく対応できません。7班に分かれ、伊香具小学校を避難所にしたときの運営をみんなで考えました。



7班の代表者による避難所の配置等の発表

体育館内に避難者をどこに配置するか、受付場所、仮設トイレ、救援物資の置き場、ごみ処理場などをどこにするか各班で考えたレイアウトを発表していただきました。



各班の皆様お疲れ様でした。

避難所運営には用意された正解はありません。また考えて出した案が何点といったものでもありません。様々な条件により、さらに受け入れる側の判断により、避難者の意にそわない対応も発生することもあります。的確な判断力を養うための訓練といえます。ただ、原理・原則も存在します。それは避難所内に通路を確保すること。的確な判断力に富み対応力のある強力なリーダーが一人いてその指示に組織的・機能的に活動する有能なスタッフがいることです。それを知っただけでも大きな収穫でした。避難所の初期設営は行政がしてくれますが、すぐ地域自治体にバトンタッチです。避難所開設が無いことを願いますが、万が一に備えて今回の学習・訓練をわすれないようにしたいものです。

